

協会に事務局を置く団体

神奈川県消化器集団検診機関

一次検診連絡協議会

本協議会は老人保健法施行に伴い昭和57年2月、日本胃集団検診学会（現：日本消化器集団検診学会）関東甲信越地方会実施機関部会における、各県単位の「協議の場」を設置することの申合せにより発足し、満25年余を経過した。

発足以来、県内における老人保健法に基づく胃がんの住民検診を行なう一次検診実施機関の精度管理の向上、行政、医師会をはじめとする関係機関との連携協調を図り、共通の諸問題の研究、技術の向上を目指して討議を行い、胃がん検診の充実、発展を図ってきた。当協会は発足当初より事務局を引き受けている。

1. 協議会の開催

- (1) 第63回協議会 平成19年 4月18日(水)
- (2) 第64回協議会 平成19年 7月11日(水)
- (3) 第65回協議会 平成20年 1月16日(水)

2. 幹事会の開催

- (1) 第80回幹事会 平成19年 6月27日(水)

3. 研修会

日 時：平成20年 1月16日(水)
 テーマ：神奈川県における消化器集団検診の将来展望

4. 技術部会

日 時：平成20年 1月25日(金)

5. 講習会（がん検診X線撮影従事者講習）

日 時：平成20年 1月25日(金)
 主 催：神奈川県 *共催機関として協力

神奈川県消化器集団検診機関

一次検診連絡協議会名簿

横浜市立市民病院がん検診センター	会 長	今村 清子
横浜市立市民病院がん検診センター	検診担当部長	石山 暁
川崎市がん検診センター	所 長	川原 英之
(財)逗葉地域医療センター	施設 長	河村 攻
(医)松英会	理 事 長	寺門 運雄
(財)京浜保健衛生協会	理 事 長	矢作 淳
(医)倉田病院健康管理室	院 長	倉田 康久
神奈川県厚生農業協同組合連合会 保健福祉センター	センター長	須田 嵩
(財)神奈川県労働衛生福祉協会	会 長	藤原 孝憲
(財)結核予防会神奈川県支部	専務理事	磯部 仁美
(財)神奈川県予防医学協会	理 事 長	土屋 尚
神奈川県立厚木病院	病 院 長	田代 和也
(医)社団相和会産業健診事業部	理 事 長	土屋 章
(医)藤順会藤沢総合健診センター	理 事 長	石井 敏之
神奈川県保健福祉部健康増進課	課 長	玉井 拙夫
神奈川県医師会	理 事	石井 出
神奈川県医師会	理 事	羽鳥 裕
	(事務局)	稲葉 稔明

神奈川県消化器内視鏡技師研究会

本研究会は、県下の消化器内視鏡技師もしくは、その仕事に携わる人々を対象にお互いの知識・技術の向上をめざし、日常業務の質の向上を図る目的で設立され活動を行っている。

今年度は、帝京大学溝口病院 藤田賢一技師が世話人を勤め、下記のとうり行われた。

第27回神奈川県消化器内視鏡技師研究会

日 時 平成19年4月22日(日)
 会 場 (財)横浜市教育会館
 技師世話人 帝京大学溝口病院
 内視鏡室 藤田 賢一

内 容

消化器内視鏡機器取り扱い講習会
 一般演題 3題

特別講演 「内視鏡機器関連の故障と予防」

パネルディスカッション

「内視鏡のリスクマネージメント」

入場者 545名

特別講演は、日々技師が直面する機械のトラブルに対する対応と予防措置についてメーカー技術担当者から話を聞き、改めて機械の仕組みと構造を理解することができた。

パネルディスカッションでは「リスクマネージメント」を取り上げ、各施設の取り組み・事例を聞くことにより会場内の技師たちも自施設のあり方を振り返り、また不足箇所に気づくことができるなど、また一つ明日からの仕事に役立つ勉強の場となった。

顧 問（五十音順）

青木 誠孝	青木医院
小泉 博義	藤沢湘南台病院
比企 能樹	北里大学病院名誉教授
藤田 力也	昭和大学藤が丘病院名誉教授
三輪 剛	東海大学医学部病院名誉教授
山川 達郎	帝京大学溝口病院外科

役 員

青地 広美	横浜市立大学医学部附属市民総合医療センター
片野早江子	聖マリアンナ医科大学病院
上條のり子	昭和大学藤が丘病院
木下千万子	淵野辺病院
星野 朱美	横須賀共済病院
佐藤 和夫	神奈川県労働福祉協会
佐伯 美奈	聖マリアンナ医科大学横浜西部病院
菅原ゆかり	松島クリニック
瀬戸 道雄	青木医院
谷合 幸乃	横浜市職員
納所けい子	神奈川県予防医学協会
中村 深雪	横浜市民病院
花木由香里	村松内科胃腸科クリニック
藤井あずさ	丹羽病院
藤田 賢一	帝京大学溝口病院
藤森 弘樹	昭和大学藤が丘病院
松橋 妙子	国際親善病院
三浦 美保	北里大学東病院
武藤美枝子	東海大学病院

(事務局 納所けい子)

横浜市マンモグラフィ判定委員会

厚生労働省のがん検診の指針に則り、横浜市は平成13年10月よりマンモグラフィ装置のある市内の45医療機関（平成20年4月現在56機関）を対象にマンモグラフィ併用検診を開始した。

平成17年7月から、対象者を40歳以上の隔年とし、40歳代には2方向撮影、50歳以上には1方向撮影にて実施している。

システムとしては、上記医療機関では視触診とマンモグラフィを同時実施とし、装置のない医療機関は視触診のみを実施し装置のある医療機関でのマンモグラフィ撮影を行い、一次読影を撮影医療機関で行ってフィルムを判定委員会に送付する。判定委員会では二次読影を行い、読影結果とフィルムを視触診を実施した医療機関に返し、そこで総合判定を行い受診者に説明するというシステムである。

判定委員会システムの運営は、事務局としての当協会が担当している。

判定委員会には撮影に従事する放射線技師も参加し、医師、技師による合同判定会として運営されている。更に検診に参加している医療機関の医師、技師にも公開され、検診レベルの向上に努めている。

判定会開催（19年4月～20年3月）92回

検討会開催（19年11月9日）

- ・MMG巡回検診実施について
- ・MMGデータについて
- ・日本乳癌検診学会について

判定委員会委員長

聖マリアンナ医科大学乳腺内分泌外科教授
福田 護

副委員長 八十島クリニック 八十島唯一
判定委員 32名

（事務局・栗原 博）

神奈川県乳がん集団検診協力医療機関連絡会

県の乳がん集団検診は昭和52年度から開始されています。53年度以降は県が実施主体となって、「神奈川県乳がん集団検診協議会」の技術指導のもとに神奈川県予防医学協会が委託を受け実施いたしました。

その後昭和60年度に乳がん検診が老人保健法に変わり、実施主体が市町村に変わったのを契機に、神奈川県予防医学協会を事務局として「乳がん集団検診協力医療機関連絡会（現会長福田護（聖マリアンナ医科大学乳腺・内分泌外科教授）が発足し、上記協議会を引き継ぎ、検診の実務が遂行されています。

同連絡会は「県生活習慣病検診管理指導協議会乳がん分科会（会長福田護（同上）、事務局県保健福祉部）」の指導のもと検診精度管理面の検討と、検診の円滑かつ効果的な運営を図るため設置運営されています。

また同連絡会は年に1回全体の協議会を開催し、集団検診ならびに追跡調査の状況を報告し精度管理のチェックをすると共に、検診の実務上必要な情報交換を実施し、また厚生労働省の視触診の指針に基づく技術協力を各医療機関に要請しております。そして追跡調査の結果は毎年連絡会の医療機関の代表が「日本乳癌検診学会」に報告し、全国における神奈川の検診実態把握と精度向上に努めています。

2. 会員（敬称略：順不同・平成20年7月1日現在）

会長・聖マリアンナ医科大学病院乳腺 福田 護
乳腺・内分泌外科教授

<医療機関名>

横浜市立大学医学部第一外科	利野 靖
横浜市立大学医学部第二外科	石川 孝
横浜船員保険病院	上妻 達也
昭和大学藤が丘病院	真田 裕
横浜南共済病院	清水 哲
日本医科大学付属第二病院	山下 浩二
聖マリアンナ医科大学病院	緒方 晴樹
藤沢市民病院	仲野 明
藤沢湘南台病院	田村 功
茅ヶ崎市立病院	小林 一博
北里大学病院	蔵並 勝
国立相模原病院	秋山 憲義
平塚共済病院	片山 清文
小田原市立病院	小山 隆史
山近記念総合病院	久保田光博
西湘病院	原 俊介
秦野赤十字病院	鈴木 弘治
東海大学病院	徳田 裕
三浦市立病院	小澤 幸弘
大和市立病院	竹下 利夫
東海大学大磯病院	大谷 泰雄
伊勢原協同病院	篠田 政幸
平塚市民病院	坂田 道生
熱海病院	岩崎 博幸
海老名総合病院	内山喜一郎
津久井赤十字病院	荒井 義孝
東芝林間病院	竹中 晴幸
相模台病院	坂本いづみ
横浜旭中央病院	櫻井 修
横浜掖済会	高橋 利通
横浜市南部病院	池 秀之
横浜医療センター	土井 卓子

（事務局：稲葉稔明）

神奈川乳房画像研究会 神奈川乳房超音波画像研究会

本研究会はマンモグラフィ・乳房超音波検査・臨床検査技師・乳房画像診断・病理診断に携る県下の放射線技師・医師をはじめ、その検査を受ける立場である一般の方に至るまでを対象とし、早期乳がんを発見するために、画像診断力や精度管理の知識向上に役立つ情報や医療現場の現状などの普及活動を行なっている。平成18年3月に発足した神奈川乳房超音波画像研究会も同様に広い範囲で活動を推進している。

世話人代表 萩原 明

平成19年度 神奈川乳房画像研究会 神奈川乳房超音波画像研究会活動状況

《第32回研究会》《第9回超音波研究会》
平成19年6月23日(土) 参加人数 223名

1. 「乳癌局所療法の変遷と画像診断」
亀田メディカルセンター乳腺センター長
乳腺科部長 福間 英祐
2. 「乳腺画像技術編、超音波もふくめて」
蓮田一心会病院放射線科・乳腺外来 石栗 一男
3. 「乳腺病理入門フィルムリーディング基礎編
パート2」
埼玉県立がんセンター病理科部長 黒住 昌史

《第33回研究会》《第10回超音波研究会》
平成19年12月1日(土) 参加人数 185名

1. 「乳がんの画像診断、最近のトピックス」
聖マリアンナ医科大学放射線医学教室教授 中島 康雄
2. 「日本乳癌検診学会の取組と目指す方向」
聖マリアンナ医科大学乳腺・内分泌外科教授 福田 護
3. 「がん対策のための戦略研究:超音波による乳癌
検診(J-START)」
東北大学大学院医学系研究科外科病態学講座腫瘍
外科学分野教授 大内 憲明

《第34回研究会》《第11回超音波研究会》
平成20年3月22日(土) 参加人数 120名

1. 「ファントムを用いた超音波装置精度管理の状
況と自動式乳房走査装置使用経験」
聖マリアンナ医科大学病院超音波センター 桜井正児
2. 「乳癌診療におけるPET-CT検査の有用性」
四谷メディカルキューブ乳腺外科部長 長内孝之
3. 「超音波画像と病理像の比較から学ぶ乳腺病理」
埼玉県立がんセンター病理科部長 黒住昌史
(事務局・見本喜久子)

神奈川県健康管理機関協議会

本協議会は、企業の健康管理を側面から支援する企業外健康管理機関として、より質の高いサービスを提供すると共に、労働衛生行政へも積極的に協力していくことを目的として活動している。平成19年度の会員機関は16機関で年2回運営面の適正化と質的向上に関する事項の協議の場として、継続的に協議会を開催している。

平成19年度活動状況

第1回協議会(平成19年10月19日)

1. 神奈川労働局からの連絡事項
・一般健康診断の項目改正について(平成20年4月1日から適用)
・石綿健康管理手帳の交付要件の改正について(平成19年10月1日より変更)
2. 講演
テーマ:「産業医の立場で特定健診・特定保健指導を考える」
講師:労働衛生コンサルタント事務所オークス所長 竹田 透
(1) 産業医と特定健診・特定保健指導
(2) 混乱している要因
(3) 実務面での問題
(4) 特定健診・特定保健指導を産業保健に活かせるか?
3. 情報交換
・特定健診・特定保健指導の対応策と問題点

第2回協議会(平成20年3月26日)

1. 神奈川労働局からの連絡事項
・労働安全衛生法に基づく定期健康診断の項目の改正について
・長時間労働者への医師による面接指導制度について
2. 講演
テーマ:「政府管掌健保の特定健診・特定保健指導事業について」
講師:財団法人社会保険健康事業財団神奈川県支部長 佐藤 勇
(1) 政管健保における特定健康診査等の実施案
(2) 社会保険庁の廃止に伴い2つの非公務員型法人を設立
(3) 全国健康保険協会の組織人員の骨格
3. 情報交換
・特定健診・特定保健指導の準備状況

機関名

- ▲代表幹事 ●幹事
- ▲(財)神奈川県予防医学協会
 - (財)神奈川県労働衛生福祉協会
 - (財)ヘルス・サイエンス・センター
 - (財)京浜保健衛生協会
 - (財)結核予防会 神奈川県支部
 - (財)全日本労働福祉協会
 - (財)日本予防医学協会 東日本統括センター
 - (財)労働衛生協会
独立行政法人 労働者健康福祉機構 関東労災病院
健康管理センター
 - (財)労働科学研究所
 - (医)社団 日健会 日健クリニック
 - (医)社団 相和会
 - (社)衛生文化協会 城西病院
独立行政法人 労働者健康福祉機構 横浜労災病院
海外勤務健康管理センター
 - (財)逗葉地域医療センター
神奈川県厚生農業協同組合連合会
健康管理センター

※平成20年3月31日現在

(事務局 根本 克幸)

神奈川健康保持増進サービス機関等連絡会

神奈川健康保持増進サービス機関等連絡会は、神奈川県下で活動している中央労働災害防止協会認定（名簿登録機関）の健康保持増進サービス機関で組織され、神奈川県労働局の指導の下に発足し自主的に運営されている。その目的としては、事業主の責務である労働者への健康づくり活動をより質の高いものにするべく、技術の向上、運営の適正化またサービスを提供するための協議する場とすることである。

昭和63年にスタートしたTHP（働く人の心とからだの健康づくり）は、今年10月に20周年を迎えます。また昨年は、より多くの事業所がTHPに取り組みやすくするために「THP指針」が改正され、新たな事業として「THPデモンストレーション事業」が始まった。

「THPデモンストレーション事業」は常時使用される労働者数が300人以下の事業所を対象とし、事業所からのご要望に応じて、労働者健康保持増進サービス機関・指導機関を通じて、健康づくりの専門家を派遣し、事業所の実績に応じて健康測定、運動指導等のメニューを提供する。

生活習慣病対策として、今年度よりメタボリック対策としての特定健診・特定保健指導がスタートしました。今後ますます働く人々を対象としたTHPの重要性が増していく。

（事務局 北見 護）

<平成20年度加入機関>

（財）神奈川県労働衛生福祉協会
（医社）善仁会 横浜東口ヘルスチェッククリニック
（医社）こうかん会
（財）神奈川県予防医学協会

肺疾患検討会

「肺疾患」とは如何にも雑駁に聞こえる名称だが、実はこれが昭和56年より26年間殆んど休みなく継続してきた理由かも知れない。特定の肺疾患の鑑別には他のあらゆる肺の疾患を知ることが必須であるとの確信から命名したと覚えている。第100回を記念して小宴を開いた折に、これ以上続けられないかと懸念したが、その後、世代が次第に交代してともすると出席者の名前と顔が一致しないようになってきた。勿論、症例を呈示載っている各施設の先生方の御快諾なくしては叶わぬことで改めて感謝したい。

第123回 平成19年 5月29日

I) 横浜労災病院 呼吸器外科 前原 孝光先生、正津昌子先生

- ①左肺上葉異常陰影の一例。②右肺腫瘍の一例。③縦隔腫瘍+左肺異常陰影の一例。④縦隔・肺門リンパ節腫張の一例。⑤中下葉無気肺の一例。⑥左肺下葉腫瘍の一例。

II) 藤沢市民病院 吉本 昇先生 60歳膿胸後の気管支瘻に対する治療法は？

第124回 平成19年 9月25日 横浜市大附属市民総合医療センター。乾 健二先生

- ①内部に空洞を伴った多発性結節→嚢胞状気管支拡張症の手術例。②急性扁桃炎から降下性壊死性縦隔炎・膿胸を来した一例。③BHLと心嚢水貯溜を来した一例。

第125回 平成19年11月20日 神奈川県予防医学協会 呼吸器検診部 井出 研、松崎稔

健診、検診で発見された胸部疾患症例について。とくに間接フィルムとの対比例。

第126回 平成20年 2月19日 国立病院機構横浜医療センター 呼吸器外科 坂本和裕先生、山中一輝先生

- ①Pulmonary Langerhans Cell 肉芽腫の二例。②Metastatic angiosarcoma of lung ③Birt-Hogg-Dube 症候群☆ ④リンパ腫様肉芽腫

（事務局・井出 研）

日本作業環境測定協会神奈川支部

日本作業環境測定協会神奈川支部は、昭和56年7月、神奈川並びに山梨の両県に所在する（社）日本作業環境測定協会会員により設立。現在、支部の会員は、自社4、機関28、指定1、委託2の計35会員である。

神奈川支部は設立以来、作業環境測定士の資質向上と測定技術の精度向上、測定機関の業務改善並びに会員相互の親睦を目的として、種々の事業を展開してきた。

平成19年度は、作業環境測定推進大会を始めとして、各種の事業を行った。その主な内容は次の通りである。

会 議

- ①総会1回 ②機関全体集会1回 ③理事会2回
④技術専門委員会6回

事 業

I. 作業環境測定推進大会 (19.9.10)

①特別講演

「最近の労働衛生行政の動向」

神奈川労働局労働衛生課長 花形 修身

②事業場における化学物質のリスクアセスメントの進め方

中災防 労働衛生センター副所長 山田 憲一

③言葉の持つ意味

早稲田大学理工学部教授 名古屋俊士

II. 技術研修会

(1) 第1回技術研修会 (19.5.18)

～メンタルヘルスを予防するためのコミュニケーション術～

ビジネスコーチ・心理カウンセラー 丹後 佳代

(2) 第2回技術研修会 (19.12.7)

工場見学会：関西ペイント(株)平塚事業場

(3) 第3回技術研修会 (20.3.13)

①最近の労働衛生行政の動向について

神奈川労働局労働衛生課長補佐 中村 宏彰

②身近な環境改善事例

(財)山梨労働衛生センター 望月 速人

菱重エステート(株)相模原支社 竹内猪佐夫

(財)神奈川県予防医学協会 芦田 敏文

③局所排気装置の定期自主検査の方法と着眼点

阿部労働安全衛生コンサルタント事務所

所長 阿部 龍之

役員・技術専門委員

役員	技術専門委員
支部長 蒔田 道則	竹平 知義 (労働衛生福祉協会)
副支部長 田原 仁	竹内猪佐夫 (東菱エステート)
〃 井澤 方宏	芦田 敏文 (予防医学協会)
理事 大角 武志	灰塚 正隆 (オオスミ)
〃	岸 康博 (日産自動車)
監事 望月 明彦	望月 速人 (山梨労働センター)
〃 池田 善郎	星野 健二 (JFEスチール)
行政 花形 修身	中村 宏彰 (神奈川労働局)

(事務局・芦田 敏文)

神奈川県簡専水協議会

簡易専用水道検査機関協議会は、昭和54年4月1日に神奈川県内の簡易専用水道(受水槽の有効容量が10m³超)の施設を検査する7検査機関で設立された。この協議会は、簡易専用水道の適正な維持管理、検査事例報告および検査精度の統一などを目的に発足され、現在に至っている。

発足時は厚生労働大臣の指定制であったことから、検査地域の指定、検査料金の統一などが図られていたが、平成16年3月の水道法改正により、厚生労働大臣の登録制と変更されたことで、検査地域、料金設定などが自由に決定できるようになった。

協議会の機関数は、神奈川県内を検査対象としている9検査機関で構成され、会長機関は2年間の持ち回り制である。

当協会は平成19、20年度を事務局として担当している。

平成19年度は、協議会2回を開催し、その主な内容については次の通りである。

1. 協議会

1) 第1回例会 平成19年6月1日

役員を持ち回りについて

規約改正について

検査の判定について

2) 第2回例会 平成20年1月25日

役員任期について

規約改正について

2. 通常総会 平成19年6月1日

4. 研修会

日 時：平成20年1月25日

テーマ：神奈川県における水道施設の現状について

講 師：神奈川県企業庁水道電気局水道施設課

神代 未生

神奈川県簡易専用水道検査機関名簿

会長	神奈川県予防医学協会理事長	土屋 尚
副会長	日本環境衛生センター	成毛 精一
機 関	よこはま環境センター	吉村 映美
〃	北里環境科学センター	松本 浩一
〃	東京顕微鏡院	宮脇 浩
〃	神奈川県保健協会	渋谷 範幸
〃	神奈川県貯水槽協会	竹内 幸治
〃	食品薬品安全センター	今野 稔
〃	神奈川県薬剤師会	山口 勇治
事務局	神奈川県予防医学協会	芦田 敏文

(事務局・芦田 敏文)

神奈川県学校・腎疾患管理研究会

昭和50年に発足し30年目。各地区医師会・行政・大学医学部・病院・学校・検診機関が相互に連携し地道な腎疾患対策を行い児童・生徒の健康に寄与すべく事業を展開している。

I 調査研究事業

1. 小田原市における腎疾患管理で卒業等により、管理解除となった者に対する追跡調査のまとめ。

26年間の卒後検診の総括を実施する予定で、基本的なデータの集積及び検討を行った。

責任者 藤原 芳人（本会幹事・横浜市医師会）

2. 調査研究

- ①学校現場と医療分野の連携を図るため、各市町村養護教諭部会と講演と情報交換の会を実施予定したが、今年度は日程調整がまとまらず実施出来なかった。

責任者 生駒 雅昭

（本会幹事・聖マリアンナ医科大学 准教授）

- ②各地区の判定委員会の現状と問題点の把握 平成19年10月6日(土)

（内科医との連携）

11地区・8名

責任者 小坂橋 靖

（本会会長・聖マリアンナ医科大学 病院長）

II 総会および研究会

平成19年9月8日(土) 15時00分～17時00分

テーマ 「小児のメタボリックシンドローム」

講師 神奈川県予防医学協会 朝山光太郎

出席者 29名

III 医師部会研究会

1. 医師部会研究会（第1回）

7月28日(土) 15:00- 県予防医学協会

テーマ 「小児の高血圧」

講師 新潟大学小児科講師 池住 洋平

出席者 26名

2. 医師部会研究会（第2回）

12月1日(土) 15:00- 県予防医学協会

テーマ 「腎臓移植の現状と問題点及び将来像」

講師 (財)新潟県臓器移植推進財団

新潟県臓器移植コーディネーター

秋山 政人

出席者 18名

IV 知識普及活動

1. 研究会機関誌「腎」発刊21・22合併号（2,000部）
2. ホームページ(URL <http://www.shouni-jin.jp/>)

（平成20年8月1日現在）

（事務局・佐藤 光宣）

禁煙、分煙活動を推進する神奈川県議

平成11年11月5日設立発足した本会は着実な活動を展開し、県内における禁煙・分煙に関する活動の指導的役割を果たしてきている。

協会は設立時より本会の事務局を担当している。

「健康増進法」に続き国では19年に「がん対策基本法」を施行し、神奈川県では「かながわ健康プラン21」、「がんへの挑戦・10ヵ年戦略」が策定され、タバコ対策が重点課題とされている。

平成19年度は「第17回日本禁煙推進医師歯科医師連盟総会・学術総会」が横浜開港記念会館で開催され、その運営を本会が担当した。

19年度活動内容

I 会議

(1)総会 6月23日

(2)理事会 4回

II 事業

1. 講演会 6月23日

2. 第17回日本禁煙推進医師歯科医師連盟総会・学術総会の共催。市民公開シンポジウム開催 2月10日、11日

3. 禁煙・防煙講演会、禁煙セミナー
委託事業として随時開催（学校、地域等）

4. 講師派遣
学校関係42回、地域関係14回、職域関係10回、医療関係23回

5. 関連会議への協力・参加 4回

6. イベントへの参加

(1)港南台駅前キャンペーン 8月1日

(2)横浜ライフデザインフェア 9月22日、23日

(3)すこやかかながわ一万人健康ウォーク「健康生活展」11月10日

7. 神奈川県内科医学会 冊子『禁煙医療のための基礎知識』改訂版およびCD作成への協力

8. 神奈川県知事へ要望書提出 9月4日

9. メーリングリスト（NL）の運営・管理

10. ホームページの運営

役員（理事会）の構成

（20年7月18日現在）

会長 中山脩郎（神奈川県内科医学会長）

副会長 渡辺古志郎（横浜市民病院病院長）

〃 西野一紘（神奈川県歯科医師会副会長）

〃 大野秀利（神奈川県薬剤師会常務理事）

会計、理事、監事 29名（医師、歯科医師、薬剤師、看護師、マスコミ、産業、教育等）

（事務局・栗原 博）

神奈川学校保健研究会

県内の養護教諭ら、学校保健関係者が自主的に研修する場として昭和43年に発足。以来、毎月1回の月例会、夏期講習会を実施している。

1. 月例会

日時、テーマ、講師、参加人数

- ① 4月21日「アメリカから来た健康法腸セラピー」砂沢やすえ・(有)ゲシュタルト研究所代表取締役社長・13人
- ② 5月12日「ストレスによる諸症状の緩和」菅野かおり・鍼灸アロマセラピー治療院かおり&やすらぎ院長・11人
- ③ 6月16日子供の慢性疾患「子供のアレルギーと注意欠陥多動性障害、自閉症を中心に」山崎扶佐江・Yこどもクリニック院長・14人
- ④ 7月14日「養護教諭の現状と今後の課題」ーディスカッション・10人
- ⑤ 9月8日「性的虐待の発見と対応」佐藤千穂子・北里大学病院精神神経科外来心理室・臨床心理士・11人
- ⑥ 10月20日「現代化社会の中の学校」荒木肇・川崎市立中原小学校教諭・7人
- ⑦ 11月17日「発達障害をもつ子どもへの対応」～周りの支援で障害を“個性”に～小見祐子・柿の木坂相談室・臨床心理士・13人
- ⑧ 12月8日「エゴグラム不思議探求」～各種エゴグラムから始める交流分析～江花昭一・横浜労災病院心療内科部長・14人
- ⑨ 1月19日「学校で発生しやすい怪我とその対応について」佐藤和義・大船接骨院院長・24人
- ⑩ 2月16日「折り紙セラピー」藤森弘・保養・養生学研究所藤森医院院長・20人
- ⑪ 3月27日施設見学会「キリンビアビレッジ」・8人

2. 夏期講習会

日時：平成19年8月7日～9日

テーマ：「自己理解と他者理解の心とこころの響きを求めて」～支援・導入の方法を広げる～

- ① 7日「コラージュ療法」杉浦京子・日本医科大学心理学准教授
- ② 8日「自己理解とコミュニケーション能力を高める交流分析入門」江花昭一・横浜労災病院心療内科部長
- ③ 9日「軽度発達障害児の理解と支援」斎藤富美子・さいとうクリニック心とからだのクリニック院長「子どもに今、何が起きているのか」大草正信・大草心理臨床・教育相談室主宰

会員状況

小学校13人、中学校9人、高校・短大11人、その他15人。計48人。

役員

(順不同、敬称略、平成20年5月31日現在)

名誉会長	高田 和子
会長	山口 京子
副会長	藤沢 恵子 (横浜市立南舞岡小学校)
幹事	佐藤まゆみ (神奈川県立川崎高校)
	鈴木 晴美 (横浜市立浦島小学校)
	坂井 悦子 (横浜市立間門小学校)
	中野 保子 (横浜市立日吉台中学校)
	木村千恵子 (川崎市立千代ヶ丘小学校)
	平山 京子 (北鎌倉女子学園)
	菊池 幸江 (川崎市立桜本中学校)
	大木美恵子 (川崎市立南菅中学校)
	後藤 和泉 (秦野市立本町中学校)
監事	中川 優子 (藤沢市立藤ヶ岡中学校)
	工平 さん (横浜市立勝田小学校)
	(事務局・船崎隆文)